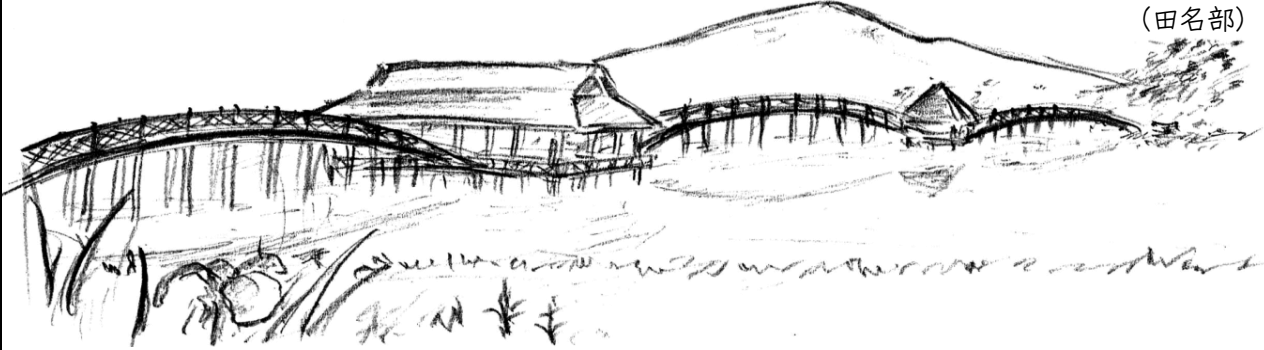


鶴の舞橋

北津軽郡鶴田町にある廻堰大溜池まわりげきおおためいけ(通称：津軽富士見湖)に架かる日本一長い木の橋「鶴の舞橋」は、総ヒバ造りの三連太鼓橋で、つがいの鶴が飛翔する姿をモチーフにして造られました。

この橋には数字にまつわる不思議な謎が秘められていて、全長300メートル、幅3メートルの3連の橋は、橋脚の直径が30センチ、丸太使用量3,000本、板材3,000枚と「3」づくし。さらに鶴の舞橋が架かる廻堰大溜池は、偶然にも万治3(1660)年3月に完成しています。また、富士見湖パークに祀られている「観音八角堂」と橋が一直線上で結ばれていることもあり、日本一「長い木の橋」＝「長生きの橋」は、神聖な数字「3」の重なりによって造られ観音様にも通じる「みち」と言われ、近年、開運・長寿のパワースポットとして注目されていますよ。

(田名部)



子供の成長を願う飾り毬

南部姫毬

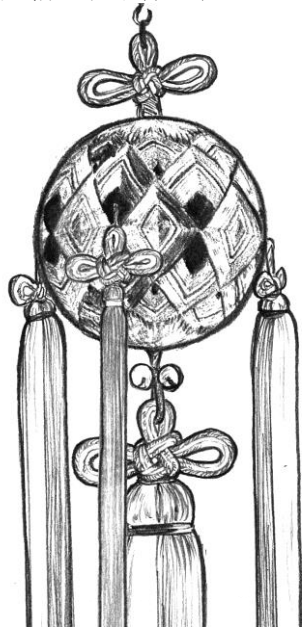
八戸市には、色鮮やかな幾何学模様と愛らしい房かざりが特徴の「南部姫毬」という伝統工芸品があります。平安時代の手法を今に伝える伝統的な手毬として、全国的に大変高く評価されている南部自慢の一品です。赤や紫やオレンジなどの色とりどりの糸で、十二単を身にまとったお姫様をイメージして作っています。惚れ惚れするほどとても綺麗な色合いで、こういうものを身に纏っていた平安朝のお姫様が、とても羨ましく思えてきます。

南部姫毬は、邪気を払い、福寿開運を求める御守りです。

「生まれてきた子供が、どうか健やかに育ちますように」

と、祈りながら神棚などに飾ります。

そういえば、私が小さい頃、我が家にも飾られていたような記憶があります。私の幸せを願い、「南部姫毬」を飾ってくれた親の深い愛情に心を打たれます。(村木)



はちすけうめ 八助梅

青森県の南部地方には、「梅」と呼ばれる「あんず」があります。八助という在来種で古くから栽培されてきました。肉厚で甘み酸味がともに多く、味と食感が梅干しに適しており、梅のように紫蘇に漬け込み食べることから「八助梅」と呼ばれ親しまれています。この八助梅は、実がとても大きくピンポン玉ほどもあり、初めて見るほとんどの人がびっくりします。大きいものは6cmほどもあるんですよ。



実は、某テレビ番組で紹介するまでの数十年間、私は八助梅が「あんず」だとは知りませんでした。こちらでは、7月初旬になると青い梅とオレンジ色の梅がスーパーや八百屋に普通に並んでいます。母に梅を買ってくるようにと頼まれ「青じゃなくて、オレンジ色の方の梅だよ、まちがわないんで」と何度も念押しされたことを思い出します。(橋本)

イラスト:東

第50号
平成26年6月

《お客様のお声をお聞かせください》

この紙面や八戸情報に対するお便りの他、「〇〇おいしかったよ。」「こんな食べ方が美味しい」といった商品に対するお便りなど、なんでも結構です。お寄せいただいたお客様の喜びの声、ご意見を元に、商品やサービスの向上に反映させていきたいと思ひます。

※今後、味の加久の屋からの情報をご不要という方は、お手数でも、ダイレクトメールの封筒を、同封の返信用封筒にお入れになり、ご返送ください。